

「ZAIDAN Report」第19号では、「花パソ」様の活動をご紹介します。

「PC講座」「スマートフォン講座」「オンライン会議講座」や、新たに「生成AIについての講座」もスタートさせるなど、シニア世代がデジタル機器を楽しく使い、実生活に役立てるためのサポートを行っている、当財団の2025年度の助成先である「花パソ」様の活動についてご紹介します。

「花パソ」様についてご紹介

沿革

2005年～	高齢者や障がい者が情報格差で取り残されないようサポートする目的で「任意団体花パソ」を立ち上げました。
2009年～	NPO法人として活動をしました。
2020年～	再び「任意団体花パソ」として、誰もがデジタルを使えるように機会や能力の差を解消する活動をしています。

※特に高齢者がICT(情報通信技術)の情報から取り残されないように、最近ではスマホやタブレットの使い方・相談会、AI講座、電子決済、聞こえの体験会などに力を注いでいます。

組織

- 役員 5名
- 講師 3名
- サポーター 10名
- 受講者 年間延べ 1,000人超

【講師の皆さん】

ロゴマークとユニフォームのポロシャツが、ピンクで統一され、とてもお洒落です。



直近3年間の主な活動(トピックス)

2023年度	<ul style="list-style-type: none"> ● スマホ講座、オンライン会議講座、タブレット講座、電子決済講座 ● 伏見区女性地域連合会ICT講座実施 ● 京都SKYセンター情報講座実施
2024年度	<ul style="list-style-type: none"> ● スマホ相談会を実施(個別対応、京都市老人福祉センター、城陽市民活動センター他) ● 「第5回スマホ&タブレット合奏コンクール」主催(全国規模)
2025年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 耳の聞こえが悪くなった高齢者を対象とする体験会 <ul style="list-style-type: none"> *AIの急速な進歩によって今まで難聴者には補聴器1択だった選択肢がOTC補聴器(スマホと連携して自分で音量、シーン別調整など)出現したことによって選択肢の幅が広がっていることへの認知向上を目的に開催 *集音器、補聴器等様々な機器を体験してもらう講座を京都市内の各老人福祉センターなどで開催

【各講座のきめ細かいサポートを支えるスタッフの皆さんと「AI講座」の様子】



【「聞こえの体験会」の様子】



「スマホ&タブレット合奏コンクール」の開催

- 花パソでは、各種デジタル講座の運営に加えて、「スマホ&タブレット合奏コンクール」というユニークなイベントを開催しています。
- この「スマホ&タブレット合奏コンクール」は、楽器アプリを使った合奏コンクールで、「誰もが音楽家！」をコンセプトに、高齢者や障がい者の生きがい・居場所・仲間づくり、そして情報格差をなくすことを目的に開催しています。

【開催概要】

- ①演奏形態 2名様以上、最大15名迄のグループ合奏
※MIDIキーボード等の楽器演奏不可、同期・録音再生しながらの演奏不可、メンバー内での生演奏のみ
- ②使用可能機材 iPhone/iPad/スマホ/タブレット
※ピアノ、ギター、お琴、ドラムなどの無料・有料問わず楽器アプリを使用すればOK!
- ③演奏曲目 課題曲1曲と自由曲1曲(計2曲)合わせて8分以内



- 2025年9月23日に開催された「スマホ&タブレット合奏コンクール」は、5回目の開催となりました。
- 楽器アプリを使うことで、指1本で演奏できるので、楽器を演奏できなかった人でもいろいろな音色を奏することができます。
- 第5回では、「ZOOMでのリモート参加」や「会場からyoutube Liveによる生配信」など、新たなチャレンジをしています。
- 2026年度は、11月に「第6回スマホ&タブレット合奏コンクール」を京都で開催予定です。



今回の助成申込に至った背景

今回のテーマ:「生成AIとスマホ活用で高齢者のデジタルデバインド解消と社会参加促進」

- 昨今のAI技術の急速な進歩により、生成AIは仕事だけでなく日常生活においても不可欠なツールとなりつつあります。
- スマホも普及から十数年が経過し、多くの人々にとって必須のデバイスですが、特に高齢者にとっては操作のハードルが高く、使いこなせていない方が多く見受けられます。
- 花パソでは、これまでもスマホ講座を通じて高齢者のIT活用を支援してきましたが、近年は、より高度な質問が増える一方で、カタカナ用語の多用などによりITに苦手意識を持つ方も少なくありません。さらに、スマホの機種による操作方法の違いも複雑さを増しています。
- 生成AIの音声入力機能は、こうした方々が気軽に情報を得たり、疑問を解消したりする上で非常に有効です。
- 本事業では、主にAndroidスマホユーザーが多い高齢者向けに、Google Geminiの音声入力による活用方法について、例を挙げてわかりやすく説明します。
- 生成AI講座以外に高速かつ簡単に読み込めるQRコードリーダーアプリ「クルクルQRコードリーダー」の使い方、LINEの便利機能トーク音声入力などといった、日常生活で役立つ最新のICT情報を広く周知する内容も盛り込んでいます。
- これら高齢者のデジタルデバインドを解消し、社会参加を促進するための活動を充実させるために助成金の申請に至りました。

スマホ 困っていませんか?

12/1 日 10:00~13:10

①10:00~10:40、②10:50~11:30、③11:40~12:20、④12:30~13:10 計12名

1人40分 「シニアスマホ・サポーター」があなたの“困った”に1対1で相談にのります

会場 板橋の町家ほっこり 〒612-8351京都市伏見区土庫町334

費用 ご自分のスマホ、筆記用具

持ち物 無料 対象 高齢者

講師 花パソ シニアスマホサポーター 3名

助成事業の成果

- 講座では、まずLINEの音声入力を紹介し、その流れで生成AIの音声機能を体験していただいたところ、文字入力が苦手な方や視覚に不安のある方から特に好評を得ました。
- QRコードリーダーアプリのご紹介では、今まで苦手だったQRコードの読み込みが簡単にできることへの感嘆の声が上がりました。
- 続いて、身近なAI活用例として、スマホ操作の質問、旅行スケジュール作成、生け花の手直し、冷蔵庫の食材を使った献立提案、英会話の練習など、日常生活に直結する使い方を複数紹介しました。
- なかでも、画像生成AIを使った手相鑑定のデモは大きな驚きと関心を引き、「生成AIでここまでできるのか」という声が多く上がりました。
- さらに、「次のステップの講座はいつ開催されるのか」という質問が相次ぎ、高齢者の方々がAIを身近に感じ、積極的に活用したいという意欲が高まっていることを実感しました。
- また、外部団体からの開催希望も多数寄せられ、当初10回の予定を、他経費を調整して12回に増やすことになりました。
- 受講申し込みも好調で、1会場を除く全ての会場において定員を上回る応募があり、関心の高さが数字にも表れていました。

【各「AI講座」の様子】 どの会場も大盛況で、皆さんの関心の高さがわかります。



スマホ講座

スマホとAIで暮らしをもっと便利に!

話しかけるだけで調べものOK!!

AIって便利そう

- 音声入力(LINEでも調べ物でも)話しかけるだけで文字入力してくれる
- ◆クルクルQRコードアプリの使い方
- ▲Gemini(生成AI)を使ってみよう!

日時 12月3日(水)午前10時~12時

会場 下京老人福祉センター

講師 花パソ

参加費 無料 定員15名

申込先 下京老人福祉センター ☎(075)341-1730

主催:協力 花パソ・下京老人福祉センター

※この事業は(公財)太陽生命厚生財団の助成により実施します

今後の抱負など…

- AI技術は日々急速に進化しており、その変化に対応することが容易ではない状況が続いています。
- 今回実施した初歩のAI講座では、どの会場においても受講生の反応が非常に良く、AIの可能性に対する驚きと高い関心が見うけられました。アンケート結果では95%が「次回講座を希望する」と回答しており、継続的な学習意欲の高さが確認できました。
- 一方で、AIに対する不安や恐怖心を抱く受講生も一定数存在し、生活の中で安全かつ適切に活用するための基本的な知識や注意点について、今後さらに丁寧な指導が必要であると思いました。
- また、ボランティア団体や地域活動の現場からは、事務作業の効率化や活動のアイデア創出にAIを活用したいという要望が多く寄せられ、今のボランティア団体が高齢化していること、PC操作が苦手なことを考えると今後は、こうした団体の実務に役立つAI活用方法についても講座内容を拡充し、地域全体のデジタル活用力向上に寄与していくためにも引き続き、AI講座を続けていきたいと思っています。